

編集後記

ここに神奈川県立保健福祉大学誌第16巻第1号をお届けいたします。本号には原著4編、報告5編、資料5編、その他1編の合計15編の論文が掲載されています。日頃の研究成果を論文にまとめ投稿くださいました著者および共著者の皆様、また丁寧な査読によりご協力くださいました査読者の皆様のおかげで無事発刊できましたこと、お礼申し上げます。

本学は今年度から、公立大学法人神奈川県立保健福祉大学として新たなスタートを切りました。「ヒューマンサービス」をミッションとして、保健、医療、及び福祉の分野における高度で専門的な知識及び技術を教授研究することが大学の設置目的の一つであり、研究機関としての役割もますます重要となってきました。公立大学法人化をきっかけに、さらに研究を推進するための支援体制づくりや学内の研究環境を整える取り組みが進んでいます。その一環として、本号では投稿論文の原稿の募集を、従来の時期だけでなく早期募集も合わせて行う試みをいたしました。早い時期に投稿された原稿については先んじて査読を行い、早期に採否を決定することとしたものです。研究成果を論文として発表することは研究活動における重要な部分であり、研究業績として次の研究費を獲得する推進力になります。今後も本大学誌が、本学の研究者にとって良い研究成果の発表の場となり、研究を活性化させる一助となるよう、研究委員会は検討を重ねて参ります。

本号の編集期間中に、日本人研究者がノーベル生理学・医学賞受賞という嬉しいニュースが飛び込んできました。受賞者の京都大学 本庶佑 特別教授が、受賞後の講演の中で興味深い発言をされていました。「生物学は（目的が明確な）ロケット開発とは違う。本当のターゲットがはっきりせず、『ギャンブル』だ」。すぐには成果が形として現れない生物学を運任せのギャンブルに例え、基礎研究のような地道な研究の重要性を説かれていました。本学では、保健、医療、福祉に関わる分野において、いわゆる基礎研究に近い領域から応用・臨床研究まで、多岐に渡る研究が行われているのが特徴です。地域への社会貢献など大学が担う役割もますます大きく多様化していく中で、研究活動に時間と労力（と予算）を割くのは大変なエネルギーの要ることではありますが、本学のような存在が、地道な基礎研究と臨床をつなぐ役割を担っているのだと思います。本大学誌がその一助となることを願っております。著者、あるいは査読者、また読者として、今後ともご協力いただきますことをよろしくお願い申し上げます。

最後に、本誌の発刊に際し多方面からご尽力いただきました研究委員会および事務局の皆様にご改めて感謝を申し上げ、編集後記といたします。

大学誌編集委員長 向井友花

平成30年度研究委員会 神奈川県立保健福祉大学誌編集委員会

榊恵子（看護学科）、○向井友花（栄養学科）、吉中季子（社会福祉学科）、小河原格也（リハビリテーション学科）、◎佐竹弘行（人間総合科）（◎研究委員会委員長、○大学誌編集委員長）

山本美紀、千濱佳子（事務局 企画・地域貢献課）

神奈川県立保健福祉大学誌 第16巻第1号

発行 平成31年3月

編集 神奈川県立保健福祉大学研究委員会

発行所 神奈川県立保健福祉大学

〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町1-10-1

☎046-828-2500(代)

印刷所 文明堂印刷株式会社

〒239-0821 神奈川県横須賀市東浦賀1-3-12

☎046-841-0074(代)

